

Fresh Talk

～フレッシュトーク～



地域おこし協力隊（地域の拠点活動支援員）

えだ たいち
江田 太一さん

「今」の田舎にじゃれまいとしたが、地域の皆さまで囲んでやるべるような地域おこしをしたいと思ふ」と話すのは、先日から地域の拠点活動支援員として雄武町商工会で勤務する雄武町出身の江田さん。

紋別高校を卒業後、北海道介護福祉学校に進学し、介護の現場や派遣社員としていた。また経験を積んできた江田さんは、地元である雄武町に戻り、地域のために働きたいと感じ、地域おこし協力隊員にならうと決意したそうですね。

「現在の主な仕事は、小さな移動スーパー『ひのじ丸』に乗り、買い物が困難な地域での拠点販売や、一人での買い物が困難な人のお宅への

日用品などの配達を行っています。今はまだ覚えることだらけですが、雄武町に住む人たちが安心して暮らせる地域の環境づくりを目標に努めていきます」と今後の活動について力強く話してくれました。

「以前は札幌市に約4年ほど住んでいましたが、久しぶりに帰ってきた故郷は、静かで過ごしやすい田舎だと改めて実感しました。今自分にできることを考えて行動し、田舎に向けて頑張りますので、じつはよのづくお願いします」と江田さんの故郷に対する熱意を感じられました。



雄武町民憲章（町民の誓い）

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生かし、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一励まし合い、希望と自信をもって、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかけて、朝夕守りとおすることを誓い合います。

- 一、自然を生かし、住みよい環境をつくります。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくります。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくります。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくります。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和46年3月19日制定

▼今回は、日本語学習支援者養成講座に取材兼受講をしました。普段使っている言葉をしっかりと相手に伝えるために、話す言葉は短く、簡潔にする。これは外国人との会話だけに関わらず、日常的に意識して使うようにしなければいけないと改めて感じました。（松井）

◆編集後記

Editor's note

▼暑い日が続き、急な大雨や停電など災害の多い8月となりました。気象庁の発表による1ヶ月予報によると、オホーツク海側は9月も例年より暑い日が続くそうです。残暑が厳しくなりますが、水分補給などをしっかりして熱中症には十分注意しましょう。（結城）